

自己評価資料 A 令和4年度 経営の重点・教育保育の内容に関する評価割合

令和5年3月

学校法人島田中央学園認定こども園島田中央幼稚園長 村上泰造
同 学校関係者評価委員長 麻布文夫

1. こども園の教育目標 「元気にあそぶ子」

重点目標 ・自分で考えのびのび表現できる子・誰とでも遊び思いやりのある子・夢中になり、力いっぱいがんばる子・良い生活習慣を身につける子

2. 自己評価と学校関係者評価 評価基準 A:よく達成している B:達成している C:どちらとも言えない D:達成していない E:全く達成していない

		保護者	職員	自己評価
教育保育目標	①教育保育目標「元気にあそぶ子」は達成されている。	100.0	100.0	・①②③④⑤は、教育保育に対する園の取り組みについてダイレクタな評価であるが、いずれも94%を超える数値で高い評価を受け安定した評価を得ている。園目標が浸透してきていると感じる。 ・毎年年度初めに職員で目指す教育保育について話し合い、園の目指す方向を全員が共通理解することに時間をかけてきたが、直接は見えにくいのが確実に園の姿勢が結果につながったと考える。 ・コロナ禍であり、園行事は縮小傾向の中ではあるが、子どもたちの生活はなるべく変えずに、遊びの充実で努力し、丁寧に子どもたちに寄り添う教育保育を目指してきた園にとって大きな自信となり、素直に嬉しい結果だった。季節・自然を取り入れた教育は保護者の期待に応えられていると感じる。 ・園の教育保育のベースとして大切にしている自然との関わりについては、教育効果の高いものは継続し、常に新しい試みに挑戦し、これからも子どもにとって魅力ある環境を模索していきたい。 ・⑥⑦については、いずれも90%は超えている。こども一人ひとりを大切に丁寧な保育を目指し、自信や意欲を伸ばすために子どもと向き合う保育の姿勢が定着してきていると感じる。 ・⑧⑨の社会性の育成については、のびのびとした教育を目指しながらも、人としてまきりを守り、我慢することの大切さもしっかり教育してほしいという保護者の期待が感じられ、園としては今までの方針どおりのびのび遊ぶこととルールを守るなどの社会性の育成の両面を考えて取り組んでいきたい。 ・⑩⑪の生活の流れと環境については、2・3号児の午後の生活が落ち着かない点を改善できるよう、子どもの生活時間を見直し、子どもの遊びが途切れないように工夫することで、子どもたちに遊びの充実感が得られるように話し合いを重ねてきている。また、園内研修で取り組んでいる遊びの環境についても、教材研究をして工夫をしてきたことで、常に質の向上を目指している職員の姿勢が自信となり、数値にも表れていると感じた。そうした職員の努力が見えるかのように保護者の評価も上がっているのがありがたい。 ・⑬はコロナ禍であり、計画をしたことが実行できなかったため、今年度は評価項目を無回答とした。来年度は、コロナの状況を見て、出来る形を考えていきたい。地域との交流は、大変高い評価をして頂き、これからもコロナの状況を見てうまく取り組んでいきたい。 ・⑮⑯⑰の健康安全については、園が特に力を入れている部分で、子どもの生活はすべてこの基盤の上に立っていると共通意識している。ケガ・事故を未然に防ぐ職員間の情報伝達も定着し、個々の職員の意識も年々高まっているのに毎年評価が低かったため、今年度は取り組みの様子をHPで伝える努力をした結果、評価が高くなった。最近、保育所等の園児をめぐる事件が相次ぐ中にもかかわらず、安全管理に関する数値が大きく上がっているところが園として勇気をもらえる結果で嬉しかった。 ・⑳の1号の預かり保育については、特に長期休業中の利用の要求が高い。働く母親が増え新2号の受け入れにより、長期休業中の利用人数も年々増加傾向にある。夏は、プール掃除・危機管理のためのプール監視・熱中症対策のための1時間ごとの飲み水チェックなどに加え、職員の研修の充実もあり、手が足りない状態である。預かりの子を受け入れる限界を考え、遊び目的でなく就業を対象にした長期預かり保育に保護者の理解を求めている。
	②教育保育目標や教育方針を共有し、同じ姿勢で教育保育にあたっている。	94.2	100.0	
遊びを中心とした教育保育	③子どもの発達段階や興味関心に応じた教育保育を行っている。	96.6	100.0	
	④自然を活かし、「季節感のある豊かな体験をととした教育保育」を進めている。	100.0	100.0	
	⑤異年齢集団での遊び・活動を取り入れた教育保育を行っている。	84.2	86.9	
個を大切に した教育保育	⑥一人ひとりに目を配り、声掛けをして個々の子どもの良さを伸ばす教育保育をしている。	91.9	100.0	
	⑦子どもに平等に接し、「自信」や「意欲」を育てる教育保育を行っている。	93.7	100.0	
社会性の 育成	⑧集団生活に必要なまきりや約束、我慢することの大切さを学べるよう工夫している。	93.8	100.0	
	⑨豊かな人間関係を築いていくための基盤を年齢に応じて育てよう努めている。	93.7	100.0	
環境構成	⑩園生活や遊びの流れが子どもにとって無理のないように配慮している。	97.1	95.6	
	⑪子どもの目線に立って、遊具や教材、保育室の環境整備を心がけている。	94.2	100.0	
特別支援 教育	⑫特別な支援が必要な子どもに対して保護者や専門機関と連携して支援を進めようとしている。	71.6	100.0	
多様な 交流	⑬小学校との接続を考え積極的連携を進めている。			
	⑭地域の様々な人と交流の場を設け、人とのふれあいを大切にしている。	94.7	75.0	
健康 安全管理	⑮健康管理について気を配っている。	91.9	100.0	
	⑯定期的な安全点検や事故防止対策等、子どもの安全管理に努めている。	93.3	100.0	
	⑰定期的に様々な場面を想定した避難訓練を実施し、防災意識を高めている。	98.6	100.0	
食育	⑱食に関する指導を年齢に応じて適切に進めている。	94.2	100.0	
	⑲安心安全で子どもが楽しい食事の時間を過ごせるよう配慮している。	97.6	100.0	
保護者 との連携	⑳こどもの声や、保護者から寄せられた相談や意見要望に適切、丁寧に対応している。	88.0	100.0	
	㉑行事予定や園・クラスだよりなどで保護者に対して情報を適切に対応している。	94.2	100.0	
その他	㉒1号の園児を対象とした預かり保育の日数や時間、料金、保育内容などは、こども園として適切に設定されている。	68.8	87.0	
	㉓1号と2号の園児が混じり合っている学級での諸活動は双方の園児にとって有意義である。	82.7	95.6	
	㉔3号の園児の生活する保育室の環境は、発達段階に応じ、安全で心地よく過ごせる場として整えられている。	99.0	100.0	

自己評価資料 B

令和5年度に向けての具体的改善策

	課題	考察と改善策
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修のテーマ「子どもが主役になる環境構成」を設定し研修を進めた。 ・研修を重ねていくことで「環境構成」に関する研修成果は上がっている。 ・「異年齢交流」は活動は行われていてクラスだより等で伝えているが、言葉の伝わりにくさがあり、数値が低く残念である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の園内研修テーマ「環境構成」で、「遊びを楽しむ」を研修する中で意識を高く保育を計画し実践することができ教師間の様々な意見に触れ、多くの学びにつながった。研修を通じて試行錯誤しながらも様々な環境設定ができ、子どもたちに多くの育ちを感じ研修の成果がみられた。 ・文科省から示されている「教育保育要領」では「環境を通した教育保育」が求められており、常に新しい教材を工夫するチャレンジ精神を高め来年度も引き続き教育保育の質の向上を求めていると考えている。 ・異年齢交流は自由遊びの中での自然な縦割りはいつも見られ、そこが園の良さであると考えている。また、お店屋さんごっこなどで互いのクラスが行き来している中で育まれているものも多い。ネーミングを考えたり、伝達方法を考えたりしていく。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理について理解を深め、丁寧に仕事をしてきているつもりであるが、人事異動を含め人の出入りがあることを考えて、年度当初の確認をさらに丁寧にすることがある。 ・マニュアルの大切さと見直し続けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所等の園児をめぐる事件を受けて、園としては、体制を見直しさらなる安全管理の強化を図るため、全職員を対象に研修を行った。 ・「通園バス」については、チェックボードをさらに詳しくし、順番通りにやっていけば丁寧に確認できるチェック＝マニュアルの仕組みにより誰がバスに乗っても同じ安全が保てるようにしている。尚、バスキャッチと人の手によるチェック機能をたくさん設け、運転手は必ず車内掃除をすることから当園では起こりえない事故である。しかし、緊張を忘れず、変化の多い新学期は特にニアミスのないようにこれからも襟を正していく。 ・「不適切な保育」については、職場内の構造が関係していると解釈し「グループシंक」の考え方について研修を行った。園の構造が上からの一方的なトップダウンになっていないか、派閥の仕組みがないか、人との関係性はどうか等見直した。思ったことが言える関係、困ったことが相談しやすい関係、風通しのよさは、当園の自慢ではあるが、それは保育について語り合う関係としても重要であると同時に園全体の安全な環境を作っていく上でも大事なことだということを職員の誰しもが理解している職場でありたいと考える。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・教育保育の質を下げずに仕事内容の見直しをしていく。 ・職員の中には子育て中の保育教諭もいれば、介護中の保育教諭もいて、それぞれの経験値を生かし長く働ける環境が職場にあることが、園の財産になると考える。 ・職員にとって、園の中に常に働きやすい、働き続けられる環境がないと教育の質は保てない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の状況をできるだけ組み入れたシフトを考え、働きやすい環境をつくる。 ・仕事の効率化を常に考え、共有できるパソコンの台数増加・Wi-Fi環境の整備により、いつでもどこでも使えるようになり、時間を有効に使える環境が整った。 ・物を探す時間、片付ける時間をより短くするために、日頃から決まったところに片づけたり、自分の範囲以外のところにまで視野を広げたりして、それぞれがみんなでも管理しようと思う気持ちが大事であることを確認した。 ・パート職員の増加は、職員の仕事の負担軽減につながっている。と同時に補助職員の目により子どもの安全に繋がり、職員の心のゆとりができ保育の安全性が確保されていると考える。しかし職員の家庭事情により、やむを得ず欠勤する職員がある毎日で今後安心して休める職場環境を作るためにもパート職員の増員を希望する。
預かり保育	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育事業については、働く母親の急増により利用を望む声が年々増えている。 ・新2号の市の受け入れも進んでおり、長期休業中の預かり保育への希望が特に高い。 ・これにより、経済的な面での保護者の負担は、軽減しているものの預かりの人数は、増加傾向にある。対応する職員数には限界があり、職員負担は年々高くなっているのが現状。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中の預かり保育は、働くことを証明できる就労証明書と個人面談を義務付けた上で受付が可能な「就労を目的とした預かり保育」とし、あそび目的の預かり保育はしない。 ・ただし、利用者にとって必要最小限の中での預かりを基本とし、働く時間を保証しながらも親と子のふれあいの時間が家庭で設けられるよう声を掛けることも大切だと考える。 ・職員への負担は年々高くなる一方だが、解決の方法は今後も大きな課題である。
こども園の生活の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・長い時間を過ごす保育部の子どもたちにとっての過ごしやすい午後の環境を追求していく。 ・午後の遊びの時間が家庭的であるか、また、遊び内容は充実しているかについて見直していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1号児の帰り時間に2号児の生活を合わせているところがあり、2号児の遊びを途中で切らないで生活できるように時間の流れを細かく検討し、生活のしやすさを考えることとした。また、乳児が園庭を独占できる時間を作ったことで安心してチャレンジできる遊びに変化が生まれ、2号児にとっても遊び込める時間の確保ができ、落ち着いた午後の時間となっている。それにより、子どもの安全にもつながり、担当教員の見届けに繋がるのではないかと考える。 ・午後の時間、長く預かる子が年々増える中で、親が安心して働けて子どもを預けることに引け目を感じることをないように、家庭的で安全な環境を用意していきたい。